

令和7年度

清瀬市児童生徒国内派遣事業

報告書

(長崎県)

清瀬市教育委員会

目次

1. 児童生徒国内派遣について
2. 事業日程表
3. 長崎県について
4. 派遣日程表
5. 派遣報告書
6. 本派遣を受けて

本報告書に掲載されている写真等はすべて、制作者や所蔵者、管理者等に申請のうえ使用しているものであり、転載・複写等を一切禁じます。

1 児童生徒国内派遣について

(1) 目的

第二次清瀬市教育総合計画マスタープラン実行計画（令和4年度～7年度）

『方向性3：「生きる力・考える力」を高め、伝えるための世代を超えた学びの場の提供』に基づき、生涯学習の一環で、清瀬市在住かつ中学校等に在学する生徒を国内に派遣し、広くその実情を視察研修させ、主体的にたくましく生きる生徒を育成することを目的とする。

(2) 令和7年度概要

日 程：令和7年10月11日(土曜日)から13日(月曜祝日)

目 的：メイン「外国との貿易の歴史や得たものについて学び、将来に生かす」

サブ「戦争や原爆について知り、平和の大切さを学ぶ」

派遣生：清瀬中学校第一学年 2名

帯同者：生涯学習スポーツ係職員 2名 株式会社JTB 添乗員 1名

派遣先：長崎県長崎市

2 事業日程表

日にち	内容	場所	
令和7年4月26日 27日	事業説明会	清瀬市役所	
5月25日 6月7日 15日	派遣企画立案支援		
6月28日	プレゼンテーション審査会		
7月28日	第1回打ち合わせ		
8月8日	第2回打ち合わせ		
8月27日	第3回打ち合わせ		
10月2日	第4回打ち合わせ		
10月6日	第5回打ち合わせ		
10月11日～13日	派遣		長崎県長崎市
11月14日	ほくほくラジオ出演		TOKYO854 くるめラ
12月25日	第1回報告会打ち合わせ	清瀬市役所	
令和8年1月6日	第2回報告会打ち合わせ		
1月20日	第3回報告会打ち合わせ		
1月22日	第4回報告会打ち合わせ		
1月26日	第5回報告会打ち合わせ		
2月26日	定期報告		
3月13日	ほくほくラジオ出演	TOKYO854 くるめラ	
3月14日	報告会	アミューホール	

※上記の他、派遣生らは家庭で資料作成やリハーサル等を実施。

3 長崎県及び長崎市について

(1) 長崎県について

長崎県は九州の西北部に位置し、東西 213km、南北 307km の大きさを誇る県です。日本の西端に位置する長崎県は古くから日本と大陸の懸け橋でした。そして、江戸時代には日本で唯一西洋に開かれた窓口として、異国の文化を受け入れながら、多くの人と交流し栄えてきた歴史があります。

(引用：長崎県発行 県勢紹介パンフレット「ながさきめぐり」より)

(2) 長崎市について

長崎市は長崎県の県庁所在地であり、長崎県の南西部に位置します。古くから海外文化の窓口として発展し、江戸時代に出島が完成した後は日本で唯一貿易ができる場所でした。そして、1945年8月9日11時2分に、広島に続いて世界で2番目に原子爆弾が投下された街です。そのため長崎市では市制100周年を機に長崎市民平和憲章を定めています。また、街並みは港を取り囲むように丘がそびえたち、その斜面に建物が建ち並ぶ夜景は、2021年にモナコ、上海に並んで新世界三大夜景に認定されました。



画像：長崎市公式ホームページより

4 派遣日程表

1日目 (10月11日土曜日)

清瀬駅

↓ (電車)

羽田空港国内線ターミナル

↓ (飛行機)

長崎空港

↓ (リムジンバス)

長崎駅

↓ (路面電車)

ホテルモントレ長崎

↓ (路面電車)

日本二十六聖人記念館

↓ (徒歩)

長崎人権平和資料館

↓ (路面電車)

長崎歴史文化博物館

↓ (徒歩)

めがね橋

↓ (無料シャトルバス)

稲佐山

↓ (無料シャトルバス)

ホテルモントレ長崎



2日目 (10月12日 日曜日)

ホテルモントレ長崎

↓ (徒歩)

大浦天主堂

↓ (徒歩)

祈念坂

↓ (徒歩)

南山手レストハウス

↓ (徒歩)

グラバー園

↓ (徒歩)

東山手洋風住宅群

↓ (徒歩)

瑠璃庵

↓ (徒歩)

長崎孔子廟中国歴代博物館

↓ (路面電車)

出島和蘭商館跡

↓ (徒歩)

長崎新地中華街

↓ (路面電車)

大浦天主堂

↓ (徒歩)

グラバー園

↓ (徒歩)

ホテルモントレ長崎



3日目 (10月13日月曜祝日)

ホテルモントレ長崎

↓ (路面電車)

長崎原爆資料館

↓ (徒歩)

爆心地公園・平和公園

↓ (徒歩)

浦上天主堂

↓ (路面電車)

長崎駅

↓ (リムジンバス)

長崎空港

↓ (飛行機)

羽田空港国内線ターミナル

↓ (電車)

清瀬駅

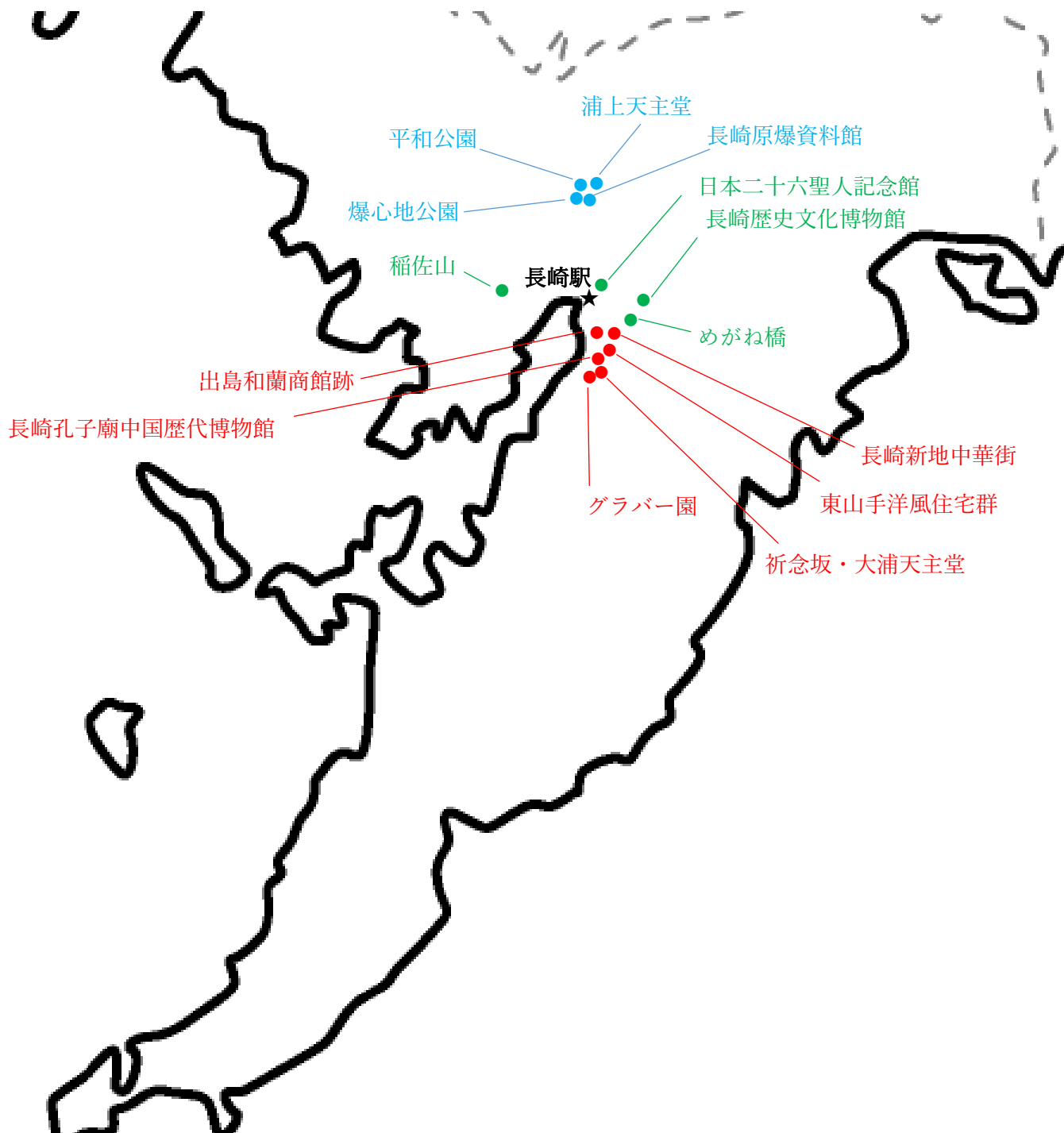


長崎市のマップ

1日目：緑色

2日目：赤色

3日目：青色



5 派遣報告書

視点を変えて物事を見る

清瀬市立清瀬中学校 1年 Y.O

私は学校で配布されたチラシを見て、国内派遣の全国どこにでも学びに行くことができるという点に惹かれ、応募をすることにしました。キリシタンや出島について興味があり、鎖国時代についての知識を深めるために当時唯一の窓口だった長崎を派遣先に選びました。派遣生に選ばれたときから、歴史について実際に体験して学べることを心待ちにしていました。

私が訪れた場所で印象に残っているのは長崎歴史文化博物館と出島です。長崎歴史文化博物館ではオランダから入ってきた当時の写真撮影の技術を体験しました。撮影機の前で15秒間立っている必要があり、動く写真がぶれてしまいました。当時の写真撮影の技術を知るとともに、今の写真撮影の技術の高さを改めて感じました。出島の建物の部屋は和と洋が組み合わさっていて落ち着く雰囲気でした。日本発祥だと思っていたカルタが実はポルトガル発祥で、日本語ではなくポルトガル語だということを初めて知ったことも学びの一つです。

原爆資料館では被爆者の証言ビデオや、人が人ではなくなったような写真・展示物を見ました。証言ビデオを見ていると、当時の人の気持ちが頭の中にたくさん浮かんできて、今も原爆は被爆者の方に苦しみや病気という形で被害を与えているということを痛感しました。ピースエンジェルズで訪れた広島原爆資料館では実物に手を触れることは出来ませんが、長崎原爆資料館には展示物を触ることができるコーナーがありました。ガラス瓶はくしゃりと曲がり、表面が溶けて凸凹になっていて、ガラスが溶けてしまうほどの熱風を受けた人々の苦しみガラス瓶から伝わってきました。

人権平和資料館では日本が朝鮮や中国の方々にしてきたひどいことを知りました。たくさんさんの頭蓋骨の写真や火傷の跡の写真を見て、思わず目を背けてしまいました。日本の悲しい過去や、原爆の被害を中国や朝鮮の方々も受けているということを知り、戦争の被害は国を飛び越えて広がっていたということを初めて知りました。

今回、長崎派遣に行ったことで「視点を変える」ということを学びました。出島は昔の5分の4サイズになっています。最初はそのことを正面から受け止めすぎてなぜかよくわかりませんでした。しかし、日本の貿易の歴史を見ると、日本各地で開港して出島の窓口としての要素が薄くなってしまったからだとわかりました。物事は多面体だと思います。

学校の授業でもこの視点を変えることを活かし、わからないこともさまざまな面から見ていきたいと思います。



五感で感じる大切さ

清瀬市立清瀬中学校 1年 S.S

私が児童生徒国内派遣に応募した理由は2つあります。1つ目は、ピースエンジェルズと予定が合わず、その後も機会を逃していたからです。長崎県は広島と同じく原爆の被害を受けた場所ということもあって、原爆について学べる良い機会ということで応募しました。学校で習った原爆についてより理解を深め、戦争の残酷さを学びに行きたいと考えたからです。2つ目は、私は歴史が好きで授業で習ったことを深く理解したいという思いです。授業では、実際の物を見たり聴いたりしながら五感で感じて学ぶことが難しく、言葉と出来事の知識になっていました。しかし、当時の人々が書いた本や、建物などを実際に目で見て感じることで、今までにない知識を得られ、頭にたくさんの刺激が入り先生の授業で学んだことをより深く理解できるのではないだろうか、と考えたからです。また、外国に興味があり留学したい気持ちがある中、外国と貿易をしていた長崎は、なぜ鎖国時代に貿易の窓口として許されていたのか、栄えていたのかなど、清瀬とは違った文化に実際に触れてみたいと思ったからです。

自分たちで学びに行く場所を選び現地に足を運んで学ぶのと、インターネットのAIや学校の授業で教わることでは、学ぶことが同じでも「ああ、なるほど」と現地に行ったほうが理解でき、もっと身近に体験して学ぶことができ記憶に印象深く残りました。中でも印象深く残ったのは出島です。外国からの影響で家の内装はどのように洋風に変化していったか、という疑問に対して、当時の人々が住んでいた家を再現することで今の自分達との生活の違いを見つけることができました。商館長の家は完全に外国の家のようで、貿易によってこんなに他国の文化の影響を受けるんだと驚きました。また、長崎人権平和資料館では、自分が思っていたよりもショッキングで刺激の強い写真があり、写真越しでもかなりショックを受けました。原爆が落とされた時の写真にあったことが現実起こっていたと考えると、戦争は本当にただの殺し合いであって、悲しみと怒り以外のものをなにも生まないんだと感じました。実際に原爆の放射線を浴びた物や被爆者の映像を長崎原爆資料館で見ること、被爆当時の人々の悲しみや絶望を感じることもできました。

派遣前は、インターネットで調べた知識はついても、実際の生活に活かすことができず、せっかく事前準備で長崎のことについて詳しくなっても自分の中で留めるだけでした。ですが、派遣に行き、出島ではネットに書かれていない当時の人達の暮らしを見て感じ、事前準備で学んでいたことと結んで頭にいれることで長崎の歴史に触れることも

き、脳内でより深く理解することができました。また、長崎原爆資料館では、原爆により今でも苦しんでいる方の実際のインタビュー映像を見ることで、インターネットに載っている情報が全てではないんだと感ずることができました。実際に行ってみないとわからないことを体験し、教科書ではわからない戦争の恐ろしさを感じることができました。

今回学んだことを派遣前のように自分の中だけで留めるのではなく、授業で習うことについて「どうして?」と、物事をより深く理解するために別の視点で考えたり、身近な大人や友達に原爆の恐ろしさや戦争の残酷さを伝えて、記憶から忘れないようにしたいです。



各施設における生徒の学習の様子（写真）

清瀬市教育部生涯学習スポーツ課

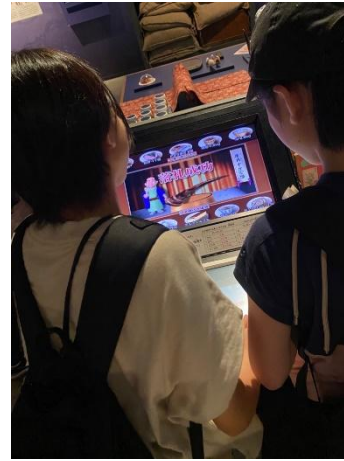
(1) 日本二十六聖人記念館



(2) 長崎平和人権資料館



(3) 長崎歴史文化博物館



(4) めがね橋



(5) 稲佐山



(6) 大浦天主堂



(7) グラバー園



(8) 東山手洋風住宅群





↑ 東山手十二番館所蔵

(9) 瑠璃庵(ビードロ体験)



(10)長崎孔子廟中国歴代博物館



(11)出島和蘭商館跡





(12)長崎新地中華街



(13)長崎原爆資料館



(長崎原爆資料館 所蔵)

(14)爆心地公園・平和公園

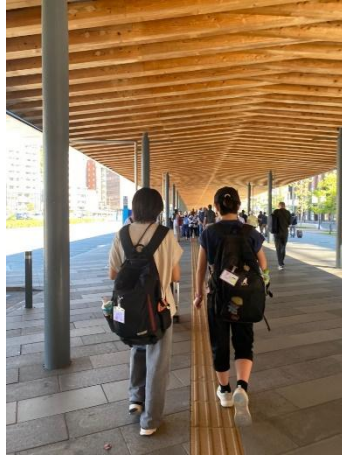


平和祈念像(北村西望作)

(15)浦上天主堂



(16) その他



6 本派遣を受けて

(1) 派遣に至るまで

派遣が決定してから派遣日まで、生徒と全6回にわたる打ち合わせを行った。当初徒歩を想定していたルートでは、Google マップのストリートビューを使用して道幅等を確認し、路面電車で切り替える等柔軟に対応していた。また、今回の派遣で訪問する東山手洋風住宅群等が建設された明治時代の居留地について、生徒たちは学校教育で未学習の状態であった。そのため、訪問する各所が建設された時代や事柄が起きた時代を江戸時代以前、江戸時代、明治時代、昭和時代に分割して時系列を整理するとともに、建設や事柄に至った経緯について事前学習を行った。学校生活と並行しての学習となったが、分担することで事前学習を期日までに終えることができた。事前学習内容は次のとおり。

江戸時代以前：日本二十六聖人殉教（日本二十六聖人記念館）

豊臣秀吉のバテレン追放令後にサン・フェリペ号が座礁したことにより起きた。

江戸時代：めがね橋の建設（めがね橋）

1634年に黙子如定が架設したと言われている。

鎖国（出島和蘭商館跡・唐人屋敷）

鎖国中唯一外国と貿易を行う場所として栄えた出島と、その時代に中国人が住まう場所として建設された唐人屋敷がある。

隠れキリシタン（大浦天主堂）

禁教令により隠れてキリスト教を信仰する信者が長崎に住んでいた。

安政の開国（グラバー園）

長崎、横浜、神戸が開港され、オランダ、中国以外との貿易が可能となって、多くの外国人が日本に住んで貿易を行った。グラバーはその時日本に来日した。

明治時代：居留地（グラバー園・東山手洋風住宅群）

外国人たちが住む場所は国が定めた居留地に限られた。グラバー園には居留地に建てられた貿易商らの旧宅が、東山手洋風住宅群は当時の居留地に現存している建物が保存されている。

昭和時代：第二次世界大戦（長崎原爆資料館、長崎人権平和資料館、平和公園）

1945年8月6日に広島へ、9日に長崎へ原子爆弾が投下された。広島に比べ、長崎は死者数が少なく報告されている。なぜ死者数に差が出ているのか疑問に思った。

(2) 派遣中

生徒たちは非常に多くの見学先を設定し、かなりの疲労感に襲われていた。本人たちも詰め込みすぎたと後悔する場面が見受けられた。しかし、各見学先ではポイントを絞り、テーマに沿って取捨選択を自ら行い、熱心に学習に励んでいた。また見学先へのルートは生徒が率先して調べ、電車の乗り換えや道案内を行った。稲佐山ロープウェイの無料シャトルバスの予約も自身で行い、予定していた1便が満席でとれなかったというハプニングも乗り越えた。道案内では遠回りの道をネットに案内されるがまま選んだこともあったが、後に「あのルートは遠回りだったのか」と自ら気づく場面も見受けられ、ネットの案内を鵜呑みにしないことも学べた。

見学先の中でもとくに三連休の稲佐山ロープウェイは予想をはるかに超える混雑具合で、ロープウェイの待ち時間が登り下りで各1時間ほど発生した。本人たちも想定外の出来事で、往路のシャトルバスの発車時刻を優に過ぎていた(展望台についた時間が往路の発車時刻であった)ため、展望台で学習をしつつもホテルまでの帰路を考えていた。生徒たちは徒歩50分を歩くしかないか、と諦めかけていたが、臨時シャトルバスが運行しており予約時間に係わらず乗車が可能であったため、23時にホテルに到着することができた。生徒は「ロープウェイはスキー場のゴンドラみたいに常に動いていると思っていた…。予想外だった」と少し調べが甘かったことと三連休であることを考慮できていなかったことを悔いていた。

平和公園での外国籍の観光客へインタビューしてみよう、ではなかなか声をかけられず、時間が迫っていても躊躇してしまっていた。しかし、自分たちと年が近い、幼い子どもを抱えたご家族が折り紙を折っていたことから、すこし話しかけやすいと思った二人はなんとか声をかけられた。1歩踏み出すのは勇気が必要でなかなか能動的な働きかけが難しかった二人だが、踏み出せばもっと話を聞いてみたい、日本をどう見ているのか知りたい、という意欲が発揮され、平和についてのみならず今回の観光で訪れた先や日本についてどう思うのか等様々な質問ができた。また相手方も生徒の年齢に合わせてゆっくりと発音、比較的簡単な英単語を多く使用してくださったおかげで言葉のキャッチボールができた。声かけがなかなかできなかった姿から、インタ

ビューもあっという間に終わってしまうだろうと想定していたが、10分以上インタビューができた。

(3) 派遣後から報告会

派遣後、学校生活と並行して報告会に向けた資料の作成に励んだ。学校でも活用されている class room を活用したことで、市と生徒たちが連絡を取りやすい環境を整えることができた。

ア 報告書の作成

①応募の動機 ②長崎にした理由 ③派遣中の気持ちや行動 ④派遣後の気持ちや行動の変化 を記した報告書を作成した（本報告書 P10～14 参照）。生徒らは本事業への応募から振り返って思いをつづったからか、スムーズに報告書を作成することができた。公の文書として適さない言葉についても、生徒の気持ちがより伝わるのはどれか、言葉を置き換えるとすとなにがあるか、を生徒自らが考えた。公の文書にそぐわない言葉もあるが、本事業は生徒の主体性を育むものであることから生徒の気持ちが伝わることを尊重し、そのまま掲載することとした。

イ プレゼンテーション資料の作成

生徒らは主にきっかけ・歴史・平和・食文化・その他に内容を分類し、分担してスライド作成に臨んだ。どこまでをスライドに記載し、どこからを口頭で説明するのかの分け方や、聞き手に見やすい・分かりやすくする工夫、全体の統一感等、全70枚超えのスライドを聞き手の目線にも立ちつつ作成した。学校の許可を得て生徒に配布されている GIGA 端末を使用したことで、リアルタイムに作業工程が反映されるアプリを使用してスライドを作ることができた。資料の作成にはかなりの時間を要したため、学校生活との両立は非常に厳しいものだったが、短時間でも集中して取り組む、タイムスケジュールを工夫する等、主体的に考えて取り組んだことでやり遂げることができた。

ウ 模造紙の作成

プレゼンテーションと重なりすぎない模造紙を作る、という生徒たちの意見のもと、模造紙は派遣の行程を視覚化する「すごろく」に決定した。アイデアもさながら、生徒たちは互いの得手不得手を知り合っているからレイアウトと絵担当、文字担当に分かれて作業を行い、スムーズに取り組めた。



(4) 報告会

報告会に向け、生徒よりリハーサルの申し出があった。家庭でもリハーサルを実施しており、意欲の高さを伺えた。

報告会には来賓 12 名を含めた 46 名が来場した。

報告会は事業の紹介、生徒の報告・質疑応答、講評で構成され、2 時間に及んだ。

事業の紹介では本事業の概要を説明するとともに、本年度プレゼンテーション審査会に応募してくれた他 7 グループの提案を紹介した。

生徒の報告は全 70 枚超えのスライドを使用し、プレゼンテーション形式で行った。生徒たちは来場者をおもてなししたい、楽しんでもらいたいという気持ちから、コース料理で報告を行うとともにクイズを用意した。以下、コース料理の順に生徒の報告を紹介する。

ア 前菜 1 品目～きっかけから派遣までとその後～

本事業応募したきっかけ、プレゼンテーション審査会までの道のり、派遣が決まってからの動きと気持ち、派遣中に気づいたことや学んだこと、報告会までの動きと気持ちを報告した。

イ 前菜 2 品目～観光～

眼鏡橋と稲佐山について紹介した。眼鏡橋では名前の由来と建設後約 400 年が経った今でも、一度も崩壊していない技術力の高さを報告した。稲佐山では自分たちが回った施設の位置関係を確認できたことを報告した。

ウ スープ～派遣に行って学んだこと～

派遣のテーマである「外国との貿易の歴史や得たものについて学び、将来に生かす」「戦争や原爆について知り、平和の大切さを学ぶ」について、それぞれクイズを交えながら紹介した。

(ア) 長崎の歴史

日本二十六聖人殉教地、聖フィリッポ教会、出島和蘭商館跡、長崎歴史文化博物館、グラバー園、長崎孔子廟中国歴代博物館、東山手洋風住宅群、ビードロ体験、大浦天主堂について紹介した。

(イ) 原爆と平和

長崎人権平和資料館、浦上天主堂、長崎原爆資料館、平和公園について紹介し、外国籍の方へのインタビューを報告した。

(ウ) 長崎の食文化

長崎で培われた食文化の中でも主に貿易を通じて育まれた食にスポットを当て、ちゃんぽん、ちりんちりんアイス、角煮まんじゅうを紹介した。

エ 魚料理～派遣に行って～

派遣に行く前と行った後で生じた、自分たちの気持ちや行動の変わり方を報告した。

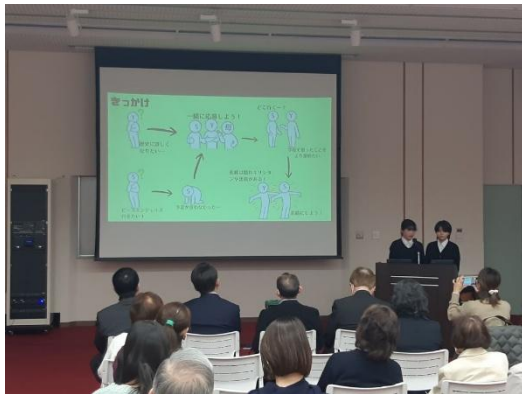
オ 肉料理～将来の自分へ～

派遣をつうじて学んだことが、自分たちの将来にどう生かされるのか、どう考えが変わったのかを報告した。

カ デザート～質疑応答～

多くの質問が本人たちの感情の変化や学びに対するものだったが、「多角的な視点」を派遣で学んだ生徒へ「多角的な視点を学んだ今だからこそ気づいた清瀬市の魅力」という質問へも、生徒は堂々と考えを述べた。

クイズでは選択肢に対して挙手をする形式だけではなく、来場者にスクリーン前に出てきてもらい写真に隠れた人物を指し示してもらう形式もあり、来場者に楽しんでもらえる工夫がされていた。来場者に対する生徒のコメントの反応も良く、和やかな雰囲気が進んだ。



会場には現地で生徒が作ったビードロ、生徒が作成した模造紙を展示した。とくに模造紙は現地の移動手段が描かれている等こだわりが垣間見え、好評を博した。



派遣前の事前学習から報告会に至るまで、生徒が自ら学びを深め、将来に向けた思いを言葉にした経験は、生徒の主体性を育んだといえるだろう。

発行：清瀬市教育委員会

発行日：令和8年3月31日